

あふれる熱意と志

京都新聞大賞

7人6団体受賞

平成27年度京都新聞大賞が文化学術、教育社会、スポーツ、福祉の各分野で功績のあった7人、6団体に贈られる。贈呈式は26日午前10時から、京都市中京区の京都新聞文化ホールで選考委員らを招いて行われる。受賞者の横顔と各賞推薦の言葉を紹介する。

東近江市永源寺診療所院長

花戸 貴司さん



「最期まで笑顔」に尽力

医療機関が少なく過疎高齢化が進む東近江市永源寺地区で、地域に根差した医療活動を続けている。

診療中も白衣は着ない。「地域の人と近い立場でいたい」との思いからだ。

平均を大幅に上回った。「最期まで笑顔でいられ、子どもたちにも生きてきた姿や命の大切さを伝えられる」と意義を語る。学校での命の教育や、研修医の受け入れなどにも取り組む。「病院ではできなくても、地域ならできると信じている」

(東近江市、45歳)

教育社会賞

推薦のことば

滋賀県教育委員長 藤田義嗣氏

花戸貴司さんは、地方までいき届かない医療に目を向け、診療だけでなく医師の養成にも尽力されている。医療費が国家的問題になる中、同様の課題を抱える他の地域の模範になる。

滋賀県文化振興事業団は、埋もれてしまう可能性がある地域の文化や歴史に光を当てた。文化は観光振興に

つながり、地方創生の時代に、地域の力をつなぐ重要な役割を果たしている。

障害者芸術推進研究機構は、障害のあるなしにかかわらず、芸術分野で才能を開花させることができるチャンスを与えている。インクルーシブ社会の実現に向けた希望のような活動だ。

滋賀県文化振興事業団

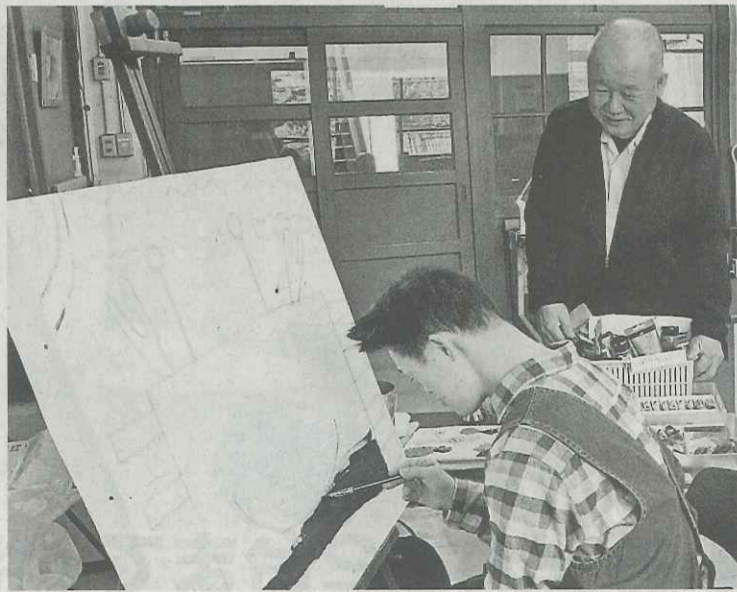
湖国の魅力幅広く発信



滋賀の総合文化誌「湖国と文化」を発行して38年、今年1月のテーマは自然や歴史、美術、

次号のレイアウトについて打ち合わせをする植田編集長(大津市京町4丁目・滋賀県文化振興事業団)

元新道小に開設されたアトリエで、創作活動に励む障害者を見守る高島理事長(京都市東山区)



障害者芸術推進研究機構

伸び伸び創作 寄り添う

創作活動に関心を持つ障者ある人たちのため、元新道京都市東山区にアトリエを美術の専門家でもあるメンが、伸び伸びとした表現者に寄り添う。

(京都市東)

障害者の職業開拓なを果たしてこられた。療を考える会」は、がこ支え合う仕組みづくってきた。がんは2人にとされ、全ての市民がない。この問題を広くるため活躍をされた。ぼこぼこ長浜地区協議近い高齢者が参加し、をつないでいる。読み子どもの笑顔を見るこの方も生きがいを感じる取り組みだ。

運ぶ



言も

療を考える会



や府民が学ぶ勉強会(区・京都府庁旧館)

育む

ぼこぼこ地区協議会



み聞かせをするシーパー協議会の植谷代表(長浜)

(大津)